

韓国語成績上位者の学習ビリーフ

崔 文 姫

1. はじめに

日本国内における韓国語学習者は、韓国の教育機関で学ぶ学習者に比べ、授業以外の環境において韓国語を使用する機会がほとんどない。最近では、韓流ブームの影響もあってか、授業外で韓国の音楽（K-POP）やドラマ、映画、テレビ番組などに接している学習者も少なくない¹が、それは単に視聴や鑑賞のレベルであって韓国語を使用するといったものではないだろう。

したがって、日本国内での韓国語学習者は基本的に同じ条件にあると考えられるが、大学の授業で初修外国語として韓国語を学んでいる学生には、優れた学習者（＝成績の優秀な学習者）とそうではない学習者が存在するのも事実である。優れた学習者は、どのような学習ビリーフを持ち、いかにして韓国語学習に臨んでいるのだろうか。

本稿は、筆者の担当する韓国語履修者を対象にビリーフ（beliefs）²調査を行ない、優れた学生の学習ビリーフを明らかにすることを目的とする。そうすることで、学生にはもちろん、教師にとっても、有効な韓国語学習を考えるうえで一助になると考える。

崔（2016）は、2015年度に担当した韓国語の履修者を対象に学習ビリーフに関する調査を行なった。そこでは、熊本県立大学の韓国語学習者の学習ビリーフの全体傾向を明らかにし、同時に、対象にした学生の学習ビリーフと学習歴との関連を調べた。その結果、ほとんど相関がないことが判明した³。

1 本稿の調査においても、そのような現状が窺えた。3節以降を参照。

2 言語学習ビリーフとは、言語（外国語）はどのように学習すべきか、言語学習はどのようなものであるかといった、言語学習に関しての意見、考え方、信念のことである（片桐2005）。

3 外国語学習者の学習ビリーフは学習歴によって異なるとの指摘があり（坂井1997）、崔（2016）でも調査したが、その調査対象者においては先行研究と異なる結果となった。なお、崔（2016）での学習者の学習歴は、学習し始めて半年程度経っているグループ（1年生向けの「韓国語入門 B-a」週2回クラス）と、学習し始めて1年半程度経っているグループ（2年生向けの「韓国語発展 I」

外国語学習のビリーフは、学習者の学習歴だけでなく、学習環境や学習者の経験、成績など、さまざまなものと影響し合いながら形成されると考えられる。

そこで、本稿では、昨年度から引き続き行なった学習ビリーフ調査のデータをもとに、調査対象者を成績上位者（＝優れた学習者）と下位者に分類し、両グループの違いを見ることにする⁴。

2. 調査概要

2.1 調査対象者

筆者の担当する「韓国語入門 B-a」「韓国語発展 I」の履修者 46 名（2015 年度 35 名、2016 年度 11 名）⁵を対象に、質問紙調査とインタビュー調査を行なった。

2.2 調査項目

質問紙調査の項目内容は、BALLI（Beliefs About Language Learning Inventory）をもとに作成したもので、6 領域（「韓国語学習の適性」「韓国語学習の難易度」「韓国語学習の実質（本質）」「韓国語学習とコミュニケーションのストラテジー」「韓国語学習の動機と目標」「教師の役割と学習者の自律性」）・全 50 項目で構成される⁶。

質問紙には 50 項目を領域ごとにまとめず、ランダムに並べ替えておいた。領域別の個別の項目内容については 3 節以下で示す。

また、インタビュー調査は、主に（すでに行なった）質問紙調査の内容について詳しく確認するものであり、加えて、既習外国語学習やフェイスシートの内容（授業時間外の学習時間・韓国語の接触有無、韓国語能力試験の有無・予定など）について質問した。

2.3 調査手順

2015 年度調査は、前期最後の授業終了後（7 月 16 日と 17 日）に授業の教室で一斉に実施したが、今回の 2016 年度調査は前期授業終了後、筆者の研究室において一人ずつを対象に行なった。なお、質問紙調査は、個人差はあ

週 1 回クラス）で分けられる。

4 本稿のように、学習者の成績と学習ビリーフの関係を調査したものには、日本語学習者を対象にした伊古田（2004）などがある。

5 2015 年度調査協力者の詳細については崔（2016）を参照されたい。2016 年度の調査協力者 11 名は全員「韓国語発展 I」の履修者である。

6 調査項目の選定については崔（2016）に詳しい。

るが、おおよそ 10～20 分程度の時間を必要とした。

調査の詳細な手順については崔 (2016) で確認されたいが、学生に調査の主旨や内容を説明した後、調査に関する同意を求め、質問紙に回答してもらうというものだった。

さらに、質問紙調査の内容にもとづき、調査に協力してくれた学生のうち 35 名⁷を対象にインタビュー調査を行なった。2015 年度は 7 月 23 日から 8 月 5 日まで、2016 年度は 8 月 2 日から 10 日までにかけて、学生一人ずつインタビューを実施した。インタビューの所要時間は一人当たり 30 分から 1 時間程度で、インタビューの内容は、のちに、データを分析し考察する時の参考資料として使用するため、すべて IC レコーダーで録音した⁸。

2.4 分析対象者の選定

筆者の担当する授業では、前期の授業期間内に数回の小テストを実施しているが、そのすべての試験の成績の合計をとり、その平均点が 90 点 (100 点満点) 以上であれば「成績上位者」グループ、平均点が 65 点以下であれば「成績下位者」グループとした。その結果、調査対象者 46 名のうち、上位グループは 13 名 (90～100 点)、下位グループも 13 名 (28～65 点) であった⁹。合わせてこの 26 名を、本稿の分析対象とする。なお、本稿の分析対象からは除外されるが、残りの中位グループは 20 名 (平均点 70～87 点) であった。

2.5 分析方法

質問紙調査のデータをもとに、前述した調査項目の 6 領域に従い、分析した。まず、「成績上位者 (以下、上位)」の学生 (13 名) と「成績下位者 (以下、下位)」の学生 (13 名) それぞれの平均値と標準偏差を算出し、2 つのグループを比較するため、*t* 検定を行なった。また、学生へのインタビューは、録音内容を聞き直し、分析結果の考察の参考資料として用いることにした。

7 質問紙調査に協力してくれた学生は全部で 46 名だが、インタビューはランダムに声をかけて都合のつく人に限定して行なったため、全員ではなく 35 名となった。

8 録音 (および内容を研究発表などに用いること) については、調査協力者全員の同意を得ている。

9 グループ分けには、授業内で実施した小テスト (筆記) 以外に、授業期間中筆者が観察した学生の教室活動 (読む能力に加え、入門クラスは会話文の暗記、発展クラスは作文能力) の様子も判断材料として参考にした。例えば、小テストの結果が良くても (上位者グループであっても)、普段の教室活動がうまくできない学生 (ほとんど韓国語が話せなかったり、作文が作れなかったりするなど) がいた場合、その人を分析対象から外すためであった。幸い、それらを考慮しても今回のグループ分けは概ね妥当であると思われた。

3. 成績上位者と下位者との違い

本節では、上位と下位にどのような違いがあるのか、50の調査項目を6領域ごとに分けて、その分析結果を述べる。

以降の表1～6には、各項目の平均値および2つのグループ（上位と下位）の比較を統計的に処理したものを示し、図1～5には、両グループに有意差が現れた項目のみ（平均値）を示している。本調査の回答は5段階評定尺度（否定的な回答←「1（つよく）そう思わない」「2（やや）そう思わない」「3（どちらでもない）」「4（やや）そう思う」「5（つよく）そう思う」→肯定的な回答）を用いているため、それぞれの項目に対して平均値が5に近づくほど肯定的で、1に近づくほど否定的であることを意味する。

3.1 「韓国語学習の適性」

まず、「韓国語学習の適正」についての結果を示す。本領域は表1のとおり全11項目で構成される¹⁰。分析の結果、本領域においては2つの項目（項目19・38）に有意差が現れ、さらに1項目（10）には有意な傾向が見られた。図1を見るとわかりやすいが、3項目ともに上位の平均値が下位より高く（項目番号順に、 $2.31 > 1.69$ 、 $3.08 > 1.54$ 、 $3.15 > 1.54$ ）、特に項目19と38については両グループの差が大きい。すなわち、成績上位者は、韓国語学習に性別はそれほど関係しないと考えており（項目19、 $M=3.08$ ）、また自分自身の韓国語学習が他人に比べ容易であるかについてもどちらでもない（項目38、 $M=3.15$ ）という認識を持っている。インタビュー内容を確認すると、性別に関する項目では「男性とか女性とかではなく、人による」「個人によってできる人とできない人がいるだけで、性別の問題ではない」「外国語学習は女性の上達が早いと聞くけど、やる気さえあれば、性別とか関係ない」などと聞かれた。また、自分自身の学習については「韓国語のため、結構時間を割いて勉強している」「1年の時はある程度簡単に覚えられたりしたけど、2年生になって学習量が増えたので簡単ではなくなった」「今取っている授業の中で一番時間をかけている」「周りに自分よりあまり勉強しているように見えないのによくできる人がいる」と述べており、上位の学生でも必ずしも学習が（他人に比べ）容易であるとは認識しておらず、ここには個人差が存在するようである。それがこの項目の結果に反映されたと考えられる。

10 項目内容を太字にしているものは、上位と下位において有意差がある項目である。以降の表においても同様である。

表 1 「韓国語学習の適性」項目の成績別平均値

項目内容	上位 (n=13)		下位 (n=13)		t 値
	M	SD	M	SD	
2. 外国語を容易に学習できる人がいる	3.54	.519	3.62	1.261	$t(16)=0.20, n.s.$
3. 他の人に比べ明らかに韓国語を容易に学習できる人がいる	3.38	.961	3.38	.961	$t(24)=0.00, n.s.$
4. 外国語ができる人は頭がいい	2.92	.862	3.31	1.251	$t(24)=0.91, n.s.$
5. すでに外国語ができる人は、別の外国語を容易に学習できる	2.62	.870	3.00	1.155	$t(24)=0.96, n.s.$
7. 母語を問わず誰でも韓国語ができるようになる	3.08	1.038	3.08	1.115	$t(24)=0.00, n.s.$
10. 日本人は一般に外国語学習が得意である	2.31	.751	1.69	.855	$t(24)=1.95, p<.10$
11. 日本人は一般に他の言語よりも韓国語学習が得意である	3.77	.725	3.54	1.198	$t(24)=0.59, n.s.$
13. 理系の人は文系の人よりも韓国語学習が苦手である	2.46	.776	2.38	1.121	$t(24)=0.20, n.s.$
19. 韓国語学習は男性より女性の方が得意である	3.08	1.115	1.54	.877	$t(24)=3.91, p<.01$
24. 韓国語学習は高校生や大学生よりも幼稚園児や小学生のほうが容易である	2.69	.947	2.92	.954	$t(24)=0.62, n.s.$
38. 私は他の人に比べ容易に韓国語学習ができる	3.15	.801	1.54	.660	$t(24)=5.61, p<.01$

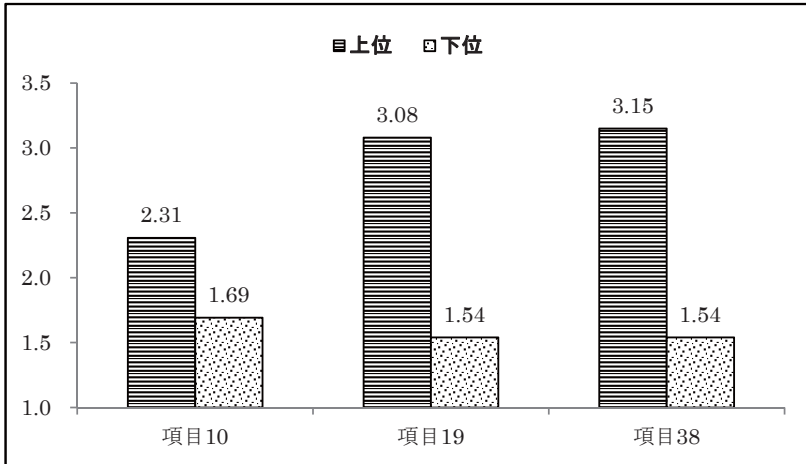


図1 「韓国語学習の適性」有意差出現項目の平均値

その反面、成績下位者は、韓国語学習には性差はない、あるいは女性よりも男性のほうが得意であると考えており（項目19、 $M=1.54$ ）、自分自身の韓国語学習についても他人に比べ容易ではない（項目38、 $M=1.54$ ）と強く認識している。インタビューでは「自分より、韓国語だけでなく、英語とかもすごいできる男の子がいる」「自分自身（女性）よりもよくできる男の子がサークルにいる」「男性でもできる人はすごいできる」「自分では少しは勉強してるつもりだけどあまり上達しない」「周りの友達を見ると、K-POPが好きだけで結構韓国語を話せたりする人がいる」「昨年よりは少し時間をかけて韓国語を勉強してるけど、小テストとか全然だめだし、単語を全然覚えられない」「日本人にとって韓国語は学習しやすいと言われているが、自分には難しい」などの発言が見られた。インタビューに応じてくれた人は全員女子学生だったが、下位の学生は、（自分の韓国語能力と比べてのことなのか）男子学生のほうが韓国語学習が得意だと判断しており、自分が韓国語学習に向いているかどうかについても否定的に捉えていることが示された。

項目10については、結果的に両グループともに日本人は一般に外国語学習が得意ではない（上位 $M=2.31$ 、下位 $M=1.69$ ）と感じており、その認識は下位のほうがやや強いことが確認された。

3.2 「韓国語学習の難易度」

本領域は表2のとおり6項目で構成され、両グループの平均値を検討し

た結果、項目1（「学習が容易な外国語とそうでない外国語がある」）と項目29（「私は韓国語が上手になると思う」）に有意差が見られた。2項目ともに上位の平均値が下位より高く（順に、 $4.31 > 3.69$ 、 $3.77 > 3.00$ ）、成績上位者が下位者に比べ、学習が容易な外国語とそうでない外国語が存在すると強く認識していることがわかる。インタビューで確認すると、上位者は「例えば、韓国語は日本語と文法や語順が似てるから容易に学習できるけど、英語は日本語とはかなり違うので学習が容易でない」「英語は小さい時からやっているのになんとなく学習しやすいのと、韓国語も日本語と似てる所が多いから学習しやすい」「アラビア語とインドネシア語とか、とにかく文字がわからない外国語はやはり学習は難しいと思う」などと述べている。英語に対する認識には個人差があるようだが、韓国語については、口を揃えて学習が容易であると語っている。下位者も韓国語については他の外国語に比べれば学習しやすいと考えているようだが¹¹、上位者のように、具体的に述べられることはなかった。

表2 「韓国語学習の難易度」項目の成績別平均値

項目内容	上位 (n=13)		下位 (n=13)		t 値
	M	SD	M	SD	
1. 学習が容易な外国語とそうでない外国語がある	4.31	.480	3.69	.947	t (24)=2.09, p<.05
8. 一般に、韓国語学習は他の外国語学習よりも難しい	2.00	.577	2.38	.870	t (24)=1.33, n.s.
9. 韓国語は日本語と文法体系などが似ている	4.69	.630	4.54	.660	t (24)=0.61, n.s.
14. 韓国語は、話す・聞くよりも読む・書くほうが容易である	3.08	1.115	2.85	1.068	t (24)=0.54, n.s.
15. 韓国語は、聞くよりも話すほうが容易である	3.23	.725	3.15	.801	t (24)=0.26, n.s.
29. 私は韓国語が上手になると思う	3.77	.927	3.00	.816	t (24)=2.25, p<.05

11 3.1節ですでに示したとおり、下位者の中には、学習しやすい（と言われる）韓国語でも自分には難しいと考える学生もいる。

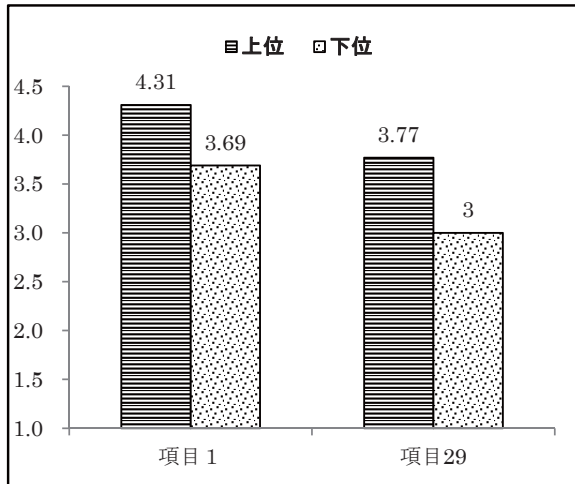


図2 「韓国語学習の難易度」有意差出現項目の平均値

さらに、上位者は自分自身の韓国語が上手になると信じている ($M=3.77$) 反面、下位者はどちらでもなく曖昧な答えである ($M=3.00$)。インタビューで、上位の学生は「本人のやる気と時間さえあれば上手になれると思うので、今頑張っている」「今学期、一番韓国語を勉強しているので、上手になると信じている」「なんととしてでも上手になりたい、というのが希望」「韓国語はやる気次第で自分のものになる」などと述べており、下位の学生は「少しは勉強しているつもりだけど、上達する気がしない」「2年になって学習量も増えているのに全然覚えられない」「よくわからない」「上手になれるとは思えない、自信がない」などと話している。

上位者は自分自身の学習を前向きにとらえ、必ず上手になる（なりたい）と思っているのに対し、下位者はややネガティブにとらえ、韓国語学習に自信を持っていないように見受けられた。

3.3 「韓国語学習の実質」

「韓国語学習の実質」領域を構成するのは表3の6項目である。この領域においては、すべての項目に対して上位と下位の差がほとんどなく、今回の分析対象者は、成績に関わらず概ね同じビリーフを持っている結果となった(表3参照)。

本領域に上位と下位の差は存在しないが、特徴的なのは、崔(2016)ですでに明らかになった結果と同じく、今回の成績による分析でも両グループと

もに韓国の文化を知ることが韓国語学習に繋がると強く認識していることである（項目 16、上位 M=4.46・下位 M=4.31）。

表 3 「韓国語学習の実質」項目の成績別平均値

項目内容	上位 (n=13)		下位 (n=13)		t 値
	M	SD	M	SD	
6. 韓国語は韓国にある教育機関で学習するのが最もよい	3.15	1.068	2.85	1.068	$t(24)=0.73, n.s.$
12. 韓国語学習は、言語学習以外の勉強とは異なる	2.46	.877	2.92	1.498	$t(24)=0.96, n.s.$
16. 韓国語をマスターするためには韓国の文化も知る必要がある	4.46	.519	4.31	.480	$t(24)=0.78, n.s.$
21. 韓国語学習で優先すべきは、新しい単語をできるだけ覚えることである	3.77	.832	3.85	.376	$t(16.7)=0.30, n.s.$
22. 韓国語学習で優先すべきは、文法規則をできるだけ覚えることである	3.54	1.050	3.77	.725	$t(24)=0.65, n.s.$
23. 韓国語学習で優先すべきは、日本語の表現を韓国語に置き換えることである	3.31	.855	3.46	.877	$t(24)=0.45, n.s.$

3.4 「韓国語学習とコミュニケーションのストラテジー」

本領域は表 4 に示したとおり 9 項目で構成される。成績別に分析した結果、1 項目 (45) を除き、他の項目に対しては上位と下位の差がほとんど現れなかった。

今回の分析対象者は、「韓国語学習とコミュニケーションのストラテジー」領域に対しても、成績に関わらずほとんど同じ傾向である（表 4 参照）。だが、9 項目のうち、唯一有意差のある項目 45（「授業以外に韓国語を使う機会があれば参加したい」）については上位と下位の差が大きい。それによると、成績上位者は授業以外に韓国語を使う機会があれば参加したいと強く考えており（M=4.46）、インタビューでも上位のある学生は、「私は今本当に話す能力を伸ばしたいので、韓国人とたくさん交流したいし、韓国語も話したい」「そのため、国際交流会館での交流会や韓国語サロンとかにも行っている」と述べていた。また、他の学生は「授業外で韓国語を使うことがほとんどないので、残念」「韓国人の友達や、そういう交流みたいな場があれば

参加したい」「自分の韓国語が通じるのか試してみたい」と話しており、積極的に韓国語の勉強に臨んでいる様子がわかる。それに対して、下位者に授業外で韓国語を使う機会があれば参加したいと思う学生はほとんどおらず、曖昧な答え（どちらでもない）をする人が多かった（ $M=3.46$ ）。

表4 「韓国語学習とコミュニケーション・ストラテジー」項目の成績別平均値

項目内容	上位 (n=13)		下位 (n=13)		t 値
	M	SD	M	SD	
17. 間違えずに言えるまでは韓国語を話すべきではない	1.54	.877	1.38	.768	$t(24)=0.48, n.s.$
18. 日本人学習者同士で韓国語の会話練習をするのは無意味である	1.46	.519	1.54	.660	$t(24)=0.33, n.s.$
20. 韓国語を音声教材などを使って練習することは重要である	4.69	.630	4.62	.650	$t(24)=0.31, n.s.$
25. 学習の初期段階で韓国語の誤りを直さないと、後になって直すのが難しくなる	4.08	.641	4.31	.480	$t(24)=1.04, n.s.$
26. 韓国語を韓国語らしい発音で話すことは重要である	4.46	.660	4.46	.519	$t(24)=0.00, n.s.$
27. 韓国語を何度も繰り返し練習するのは重要である	4.77	.439	4.77	.439	$t(24)=0.00, n.s.$
28. 知らない韓国語の単語があった場合、その意味を推測することはよいことである	4.54	.519	4.31	.751	$t(24)=0.91, n.s.$
30. 私は人前で韓国語を話す時、緊張したり恥ずかしくなったりする	3.38	1.121	3.62	.768	$t(24)=0.61, n.s.$
45. 授業以外に韓国語を使う機会があれば参加したい	4.46	.660	3.46	.660	$t(24)=3.86, p<.01$

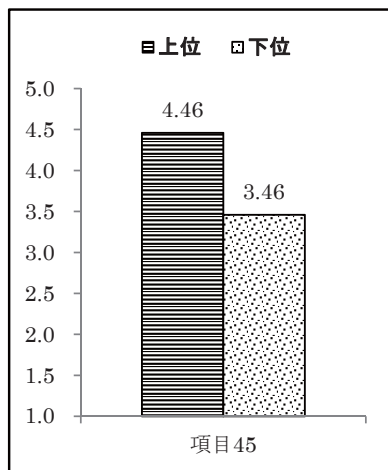


図3 「韓国語学習とコミュニケーションのストラテジー」 有意差出現項目の平均値

下位者はインタビューでも「韓国語はあまりできないし、韓国語を使うのは自信がない」「積極的に授業外で韓国語を話そうとは考えたことがない」「そういうのは苦手」などと述べていた。

加えて、注目したいのは、崔（2016）で明らかになった結果と同様、今回の成績別の分析でも本領域の項目は概ね高い平均値が示されており¹²、両方の学生ともに韓国語学習とコミュニケーションのストラテジーに関して高いピリーフを持っていることが再確認されたことである。特に、項目27（「韓国語を何度も繰り返し練習するのは重要である」）は、両グループともに4.77の平均値を示しており、ここでも、韓国語学習（外国語学習）における反復練習の重要性が浮き彫りになった。

3.5 「韓国語学習の動機と目標」

調査項目の6つの領域中、成績による違いが一番大きく現れたのがこの「韓国語学習の動機と目標」領域である。本領域は表5のとおり9項目となるが、そのうち、2項目（43と46）を除き残りのすべての項目において有意差が見られた。しかも、その差もかなり大きいものである（以下の表5と図4参照）。

12 項目17と18は低い平均値が示されているが、この2項目については回答の解釈が他の項目とは異なるので、注意が必要である。

特に、上位と下位の差が大きい項目に、項目 39・41・48・50 などが挙げられる。まず、この4つの項目はともに上位の平均値が高く、そこから、成績上位者の韓国語を学ぶ動機や目標について窺い知ることができる。上位者は、韓国のドラマや映画、K-POP に非常に興味を持っており（項目 41、 $M=4.62$ ）、韓国への留学を考えているため韓国語を学んでおり（項目 48、 $M=3.62$ ）、また旅行などで韓国に行ったときに韓国語を使いたい（項目 50、 $M=4.54$ ）という信念を強く持っている。その反面、下位者は、韓国のドラマや映画、K-POP などあまり興味を持っておらず（ $M=2.85$ ）、韓国への留学も考えていない（ $M=2.15$ ）。だが、（留学以外）旅行などで韓国に行ったときに韓国語を使いたいと考えている人もいるようである（ $M=3.54$ ）。

表5 「韓国語学習の動機と目標」項目の成績別平均値

項目内容	上位 (n=13)		下位 (n=13)		t 値
	M	SD	M	SD	
32. 韓国語ができることは自分にとって重要である	4.38	.506	3.62	.961	$t(18.2)=2.56, p<.05$
35. 韓国語を学習するのは、韓国および韓国人をよく知るためである	4.23	.439	3.54	.967	$t(16.7)=2.35, p<.05$
37. 他の人に勧められて韓国語を学習している	1.38	.650	2.23	1.092	$t(24)=2.40, p<.05$
39. 周りで韓国語を使っている人がいるので学習している	3.08	1.320	1.62	.870	$t(24)=3.33, p<.01$
41. 韓国のドラマや映画、K-POPなどに興味を持っている	4.62	1.121	2.85	1.345	$t(24)=3.64, p<.01$
43. 韓国語ができれば将来の仕事の幅が広がる	4.46	.519	4.38	.506	$t(24)=0.38, n.s.$
46. 韓国語がうまくなれば韓国語を使う機会が増える	4.62	.650	4.15	.801	$t(24)=1.61, n.s.$
48. 韓国への留学（短期も含む）を考えている	3.62	1.387	2.15	.899	$t(20.6)=3.19, p<.01$
50. 韓国に行って韓国語を使ってみたいので学習している	4.54	.660	3.54	.877	$t(24)=3.28, p<.01$

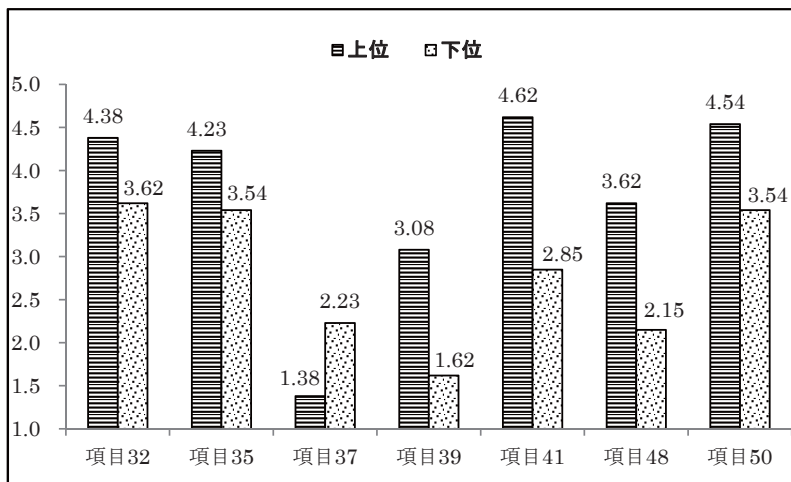


図4 「韓国語学習の動機と目標」有意差出現項目の平均値

また、今回の対象者は両グループともに、学習のきっかけとして、誰かに勧められて韓国語を履修しているわけではなく（項目37、上位 $M=1.38$ ・下位 $M=2.23$ ）¹³、周りに韓国語を使っている人がいるから学習しているわけでもなさそうである（項目39、上位 $M=3.08$ ・下位 $M=1.62$ ）¹⁴。

さらに、韓国語学習の重要性（項目32）については、上位（ $M=4.38$ ）のほうが下位（ $M=3.62$ ）より韓国語学習は自分にとって重要であるとの認識が強い。前述のとおり、上位者の中には韓国留学を考えている人が数名いて、その人たちは特に韓国語ができることは留学をするうえで最も重要で必要なことであると、インタビューで話していた。

項目35についても、上位（ $M=4.23$ ）が下位（ $M=3.54$ ）より、韓国および韓国人のことをよく知るため韓国語を学んでいると回答している。

インタビューの内容でも学習者の学習動機や目標については上位と下位に違いが多く見られた。上位者の多くは、韓国文化や韓国に対して非常に興味を持っており、特に、韓国の音楽（K-POP）が好きだということが伝わ

13 インタビューで、下位者の中には友人に勧められて韓国語を履修している人もいることがわかった。今回のように調査対象者が少ない場合は、個人のばらつきなどが結果に影響することもある。

14 インタビューで、上位者の中には周りに韓国人の友人がいて韓国語で話してみたいから韓国語を学んでいる人もいることがわかった。だが、この項目も個人のばらつきが結果に影響していると思われる。

ってきた。その人たちのインタビューでは、「中学や高校の時に K-POP がすごく流行って、その時から韓国に興味があった」「K-POP を聞くようになって絶対韓国語を勉強したいと思った」「ほぼ毎日、気が付けば、ネットや YouTube など K-POP を聞いたり韓国のテレビ番組を見たりしている」「日本のものはほとんど見ないけど、韓国の芸能ニュースや音楽番組、バラエティ番組とかはしょっちゅう見ている」「韓国の番組は面白いし、見ていて前より韓国語もわかるようになったから、すごくうれしい」と話し¹⁵、また「韓国への留学を考えているから」「将来、韓国語を生かした仕事をしたいから」韓国語を勉強していると述べている。それに対して、下位者は「別に K-POP などに興味があるわけではない」「中学の時に周りに K-POP が好きな友達がいって勧められたりもしたけど自分はあまりはまらなかった」と話す人がいたり、また「韓国語は学びやすいと聞いたから」「韓国語は簡単そうだから」「韓国語は日本語と似てると聞いたから」韓国語を履修していると述べていた。さらに「海外留学や短期研修にもあまり興味はない」「そんなに将来、海外の経験が必要な仕事に就きたいとも思わない、拘らない」と話す学生もいた。

質問紙やインタビュー調査を通じて、成績上位者は自分自身の韓国語学習の目標や動機をしっかりと持っているのに対して、下位者の場合は（上位者と）まったく異なることが確認できた。

学習者の学習動機と学習成就度の影響を分析した研究には、学習への動機づけが高ければ高いほど学習の成就度も高いとされている（Gardner & Lambert 1972）が、本調査の結果も先行研究と同様、高いモチベーションを持っている学習者のほうが成績も上位であることが明らかになった。

学習者の学習動機や目標は、学習者の自発的な学習および学習を続けられる原動力にも繋がると考えられ、学習動機が不明な学習者には、優れた教材や学習内容、教師の効果的な教授法などがあっても高い学習効果は期待できないのではないだろうか。本調査の結果からも、韓国語学習者が学習を効果的に遂行し、学習を続けられるためには学習者の学習動機を（より一層）高める必要があると再認識した。

15 もちろん、上位者全員が K-POP などが好きで韓国語を勉強し始めたわけではないことを断わっておく。上位者の中には、韓国語学習を始めてから逆に韓国の音楽やドラマなどが気になり始め、関心を持った人もいる。それを裏付けるように、インタビューである（上位の）学生は「大学に入って韓国語を学ぶまでは K-POP とかあまりわからなかった」が、「今は K-POP やドラマ、町中で見かけるハングル文字も気になって」おり、「韓国映画も借りて見たりしている」と話していた。

3.6 「教師の役割と学習者の自律性」

最後に、「教師の役割と学習者の自律性」領域を見てみよう。この領域も、前節の「韓国語学習の動機と目標」領域に続き、成績による違いが大きく現れている。本領域は、下の表6のとおり9項目で構成される。そのうち、上位と下位において有意差の現れた項目は4つ（項目40・項目44・項目47・項目49）あり、さらに項目34は有意な傾向にあった。

その中でも上位と下位の差が一番大きいのは項目44（「先生には、自分の韓国語がどのぐらいのレベルに達したか教えてほしい」）である。成績上位者は自分の今の韓国語のレベルを知りたがるが（ $M=4.23$ ）、下位者は知りたがらない（ $M=2.85$ ）。また、上位者は、自分の韓国語の間違いなどを先生に個人レベルで直してほしいと思っている（項目40、 $M=4.00$ ）のに対して、下位者はどちらでもない（ $M=3.31$ ）という認識である。授業中に行なう小テストなどの定期試験（項目47）については両グループともに自分の学習の助けになると答えており、特に上位者のほうが強くそう認識している（上位 $M=4.69$ 、下位 $M=3.85$ ）。さらに、成績上位者は自分の間違いを自分でチェックして勉強することができる（項目49、 $M=4.00$ ）のに対して、下位者は必ずしもそういうわけではなく（ $M=3.23$ ）、自分の間違いがどこにあるのかわからない人もいようである。また、上位者は宿題を通して韓国語がもっと勉強できると思っているよう（項目34、 $M=3.62$ ）だが、下位者は必ずしも宿題を課してほしいとは思っていないようである（ $M=3.00$ ）。

インタビューで確認すると、下位のある学生は「宿題は時間がかかるからあまり望ましくない」「先生には別にそこまでこまかく教えてもらわなくてもいい」「韓国語の間違いなどを先生に教えてもらわなくても構わない」と話していた¹⁶。加えると、小テストの問題用紙が返されると自分で間違った箇所を直したり復習したりしているかと該当学生に調査者（筆者）が質問すると、「テストはもらってもそのまま、まったく何もしていない、直していない」との回答が返ってきた。教師としてはガッカリするような答えだが、それとともにこういう学生の学習意欲を高めるためにはどうすればよいか、工夫が必要であると改めて実感した。

成績上位者は、先生から出される宿題や小テスト（の勉強）など、自宅で自学自習できる勉強法を強く望んでいるのに対して、成績下位者は上位者ほど宿題などを望んでおらず、学習に対する怠慢を覚え、やる気にも欠けてい

16 この学生は、項目49については、自分の間違いをチェックし勉強することができるという認識しており、さらに、自分の韓国語学習のどの部分を改善すべきかをわかっていると答えている（項目42）。質問紙やインタビューからすれば、この学生は自分自身で十分に学習できるという印象を受けるが、決して学習に成功しているわけではない。

るように思われる。

また、上位者は、自分の韓国語の間違いを自分でチェックして勉強できると考えながらも、先生には常に韓国語の間違いや韓国語のレベルを教えてもらいたいという、学習意欲を見せている。その反面、下位者は必ずしも自分の間違いを自分でチェックできるわけではないのに、先生からも自分の間違いを個人レベルで直してほしいと思わないし、自分の韓国語レベルがどの程度なのか知りたいとも思っていない。学習に非常に消極的であり、意欲にも欠けている学習態度と言えよう。

加えて、有意差はないが、項目 42（「自分の韓国語学習のどの部分を改善するべきかわかっている」）を見ると、上位よりも下位の平均値が若干高い（上位 $M=3.00$ 、下位 $M=3.46$ ）。他の関連項目と照らし合わせて考えると、この項目も上位のほうが高い平均値を示すと予想されたが結果は異なった。すでに注 16 で述べたとおり、下位のある学生はこの項目に対して肯定的に答えているが、だからと言って、それが効果的学習に繋がっているわけではなさそうである。（学生の）意識として自分はできているつもりでも、（教師側から見ると）実はわかっていないということによくあることであろう。

表6 「教師の役割と学習者の自律性」項目の成績別平均値

項目内容	上位 (n=13)		下位 (n=13)		t 値
	M	SD	M	SD	
31. 先生の言う通りに勉強すれば韓国語ができるようになるのが望ましい	3.69	.630	4.08	.760	$t(24)=1.41, n.s.$
33. 韓国語学習には常により先生からの指導が必要である	3.85	.801	3.92	.760	$t(24)=0.25, n.s.$
34. 先生には、普通の予習・復習以外に宿題を出してもらい韓国語をより勉強できるようにしてほしい	3.62	1.044	3.00	.707	$t(24)=1.76, p<.10$
36. 先生には、韓国語をどのように勉強すればよいか、教材の使い方などをこと細かく教えてほしい	3.69	.751	3.23	.832	$t(24)=1.49, n.s.$
40. 先生には、個人レベルで自分の韓国語の間違いなどを直してほしい	4.00	.577	3.31	.751	$t(24)=2.64, p<.05$
42. 自分の韓国語学習のどの部分を改善すべきかわかっている	3.00	1.155	3.46	.877	$t(22.4)=1.15, n.s.$
44. 先生には、自分の韓国語がどのぐらいのレベルに達したか教えてほしい	4.23	.599	2.85	.689	$t(24)=5.47, p<.01$
47. 先生が出す小テストなどの定期的な試験は自分にとって助けになる	4.69	.480	3.85	.899	$t(24)=2.99, p<.01$
49. 自分の間違いを自分でチェックし、勉強することができる	4.00	.816	3.23	1.013	$t(24)=2.13, p<.05$

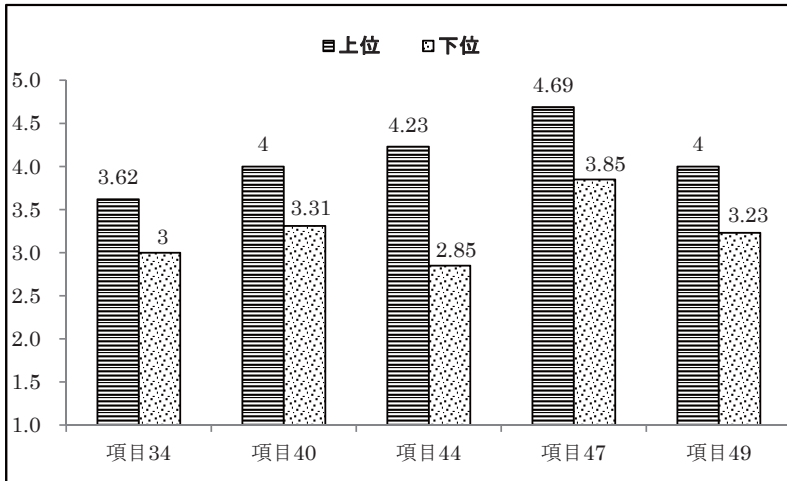


図5 「教師の役割と学習者の自律性」有意差出現項目の平均値

4. まとめと今後の課題

本稿は、昨年度に続き、筆者の担当する「韓国語入門 B-a」および「韓国語発展 I」の履修者を対象に行なった「韓国語学習についてのビリーフ」調査を分析し、考察したものである。

優れた韓国語学習者がどのようなビリーフを持ち、学習に臨んでいるのかを明らかにするため、韓国語の成績が上位の学生と下位の学生に分けて、2グループ間の差を t 検定によって検討した。

その結果、調査項目（計 50 項目）のうち、全 18 項目において有意差が見られた¹⁷。具体的には、「韓国語学習の適性」領域の 3 項目（「日本人は一般に外国語学習が得意である」「韓国語学習は男性より女性の方が得意である」「私は他の人に比べ容易に韓国語学習ができる」）、「韓国語学習の難易度」領域の 2 項目（「学習が容易な外国語とそうでない外国語がある」「私は韓国語が上手になると思う」）に有意差が現れ、「韓国語学習の実質」領域は有意差が見られなかった。続いて、「韓国語学習とコミュニケーションのストラテジー」領域の 1 項目（「授業以外に韓国語を使う機会があれば参加したい」）、「韓国語学習の動機と目標」領域の 7 項目（「韓国語ができることは自分にとって重要である」「韓国語を学習するのは韓国および韓国人をよく知るためである」「他の人に勧められて韓国語を学習している」「周りで韓国語を使っ

17 厳密に言えば、18 項目のうち、2 項目は有意な傾向にある（といえる）項目である。

ている人がいるので学習している」「韓国のドラマや映画、K-POPなどに興味を持っている」「韓国への留学（短期も含む）を考えている」「韓国に行って韓国語を使ってみたいので学習している」、「教師の役割と学習者の自律性」領域の5項目（「先生には、普通の予習・復習以外に宿題を出してもらい韓国語をより勉強できるようにしてほしい」「先生には、個人レベルで自分の韓国語の間違いなどを直してほしい」「先生には、自分の韓国語がどのぐらいのレベルに達したか教えてほしい」「先生が出す小テストなどの定期的な試験は自分にとって助けになる」「自分の間違いを自分でチェックし、勉強することができる」）において有意差が現れた。

注目すべきなのは、BALLIの6領域のうち、特に「韓国語学習の動機と目標」および「教師の役割と学習者の自律性」の2つの領域において、成績による差が大きいことである。優れた学習者とそうでない学習者が存在する要因に、学習の動機や目標をどこに置き、しっかり動機づけがあるかという観点と、それに学習者自身がどれほど自律学習できているのかという観点に関わることが判明した。すでに述べたとおり、効果的学習を遂行するためには、学習者の学習意欲や学習動機を高めることが重要である。加えて、効果的な学習ができれば結果的に学習成果も自然と上がるのではないだろうか。

それでは、韓国語学習者の動機づけや学習意欲を高めるためにはどうすればよいのだろうか。どのように（授業やその他を）工夫すれば、学習者の動機づけや学習意欲が高くなるのだろうか。有効な方法を見つけるため、今後更なる研究と調査をしなければならない。

以下に、本調査の結果得られた成績上位者の学習ビリーフについてまとめる。

（1）韓国語学習の適性と難易度

上位者は、学習が容易な外国語とそうでない外国語が存在することをしっかり認識し、そのうえで日本人は一般に外国語学習が得意ではないが、自分自身は絶対韓国語が上手になると信じている。ただ、自分の韓国語学習が他人に比べ容易であると考えていない人も中には存在し、学習しやすさには個人差がある。

（2）韓国語使用に関する積極性

上位者は、授業以外でも韓国語を使う機会があれば参加したいという意識が強く、例えば、国際交流や韓国・韓国人関係のイベントへの参加などを前向きに考えている。

（3）学習動機と目標

上位者は、学習目標がはっきりしており（例えば、「留学したい」「韓国人

の友人と韓国語で話したい」「字幕なしで韓国映画を見たい」「K-POPの歌詞をすぐ訳せるようになりたい」「韓国が好き」など)、韓国や韓国人のことを(より詳しく)知るため韓国語を学んでいる。また、K-POPや韓国ドラマなどに強い関心を持っており、それらに常に接している。

(4) 学習の自律性と教師への依存度

上位者は、宿題や小テスト(の勉強)などの自学自習が自分の学習を伸ばす手段として重要だと考えており、自分の間違いを自分でチェックして学習できると思っているながらも、常に先生に自分の韓国語の間違いを直してほしいと考えている。また、先生には自分の韓国語レベルがどのぐらいなのか教えてほしいとも願っている。自分自身の自律学習もしっかりしているが、それだけでなく先生からのきめ細かい指導を常に望んでいることを意味する。

続けて、インタビューを通して筆者が感じた上位者と下位者の違いについて記しておく¹⁸。

・上位者は学習意欲が強く、積極的に前向きに学習に臨んでいる人がほとんどであるが、下位者のほとんどは受身的学習をするだけで、自ら積極的に学習しようとししない。

・上位者は授業態度が肯定的でポジティブであり、学習に対する不安なども抱かない(と見受けられた)が、下位者は(韓国語に限らず)外国語や初めて学ぶものへの不安や苦手意識を持っている人が多い。

・上位者は、自分の学習についてしっかり振り返り反省することができるが、下位者は自分の学習についてどこをどうすればよいのかわかっていないようである。

・上位者のほとんどが4技能(読む・書く・話す・聞く)のうち自分の得意なものや苦手なものをはっきり認識・把握しているが、下位者はそうでもない。

・上位者は、授業時間以外にも韓国語や韓国文化(音楽やテレビ番組など)に接する時間が多いが、下位者は授業時間以外に接する時間が少ない(宿題をすること以外ほとんど接しない)。

・上位者は韓国語能力試験などの検定試験に強い関心を持っており、ほとんどの人が受験を考えている(もしくは受験済みである)が、下位者のほとんどは韓国語の検定試験について考えたことがなく、それがどういうものなの

18 インタビューではすでに実施した質問紙調査の内容についても詳しく確認したため、下に記す内容は、これまでの考察と重なる部分もある。

か知らない人もいる¹⁹。

・上位者は、とにかく韓国語学習そのものを楽しんでいるようだが²⁰、下位者は単位取得のため仕方なく授業を受けている人が多い。

以上で見てきたように、上位者のこのような学習態度や意識・信念などが韓国語学習に良い影響を与え、よい成績へ繋がったと結論付けられる。筆者は、昨年度より、韓国語学習者の持つ学習ピリーフに関する調査を行ってきた。崔（2016）では、学習者全体の傾向に加えてピリーフと学習歴との関連を調べ、今回は、成績とピリーフとの関連をみた。ただ、一連の調査は筆者の担当する韓国語授業の履修者に限定されているため、崔（2016）でも言及したとおり、今後は、筆者以外の教師による韓国語授業の学習者も合わせて同様の調査を行なう必要があると考える。そうすれば、多数の学習者の現状を把握することが可能となり、韓国語学習者の学習ピリーフを究明することができる。また、日本国内で学ぶ韓国語学習者だけでなく、今後は韓国の教育機関で学ぶ学習者のピリーフを調査することで、学習環境が異なれば学習ピリーフにどのような違いがあるのかを明らかにしたい²¹。

19 検定受験（や留学）などの目標があると、モチベーションが上がり、学習に対する意欲も増してくるだろうから積極的に挑戦してほしいものである。

20 参考までに加えると、上位者の多くが「韓国語は好きだからやっていて楽しく、単語などもすぐ覚えられる」「楽しいからとにかくたくさん覚えたい」「例えば英語はやらないといけないう感覚、義務感でやってるから楽しくもないし、覚えられない」「韓国語はある意味趣味だから楽しい」と話していた。これは、韓国語学習の動機にも繋がるものだろうし、上位者がどれほど韓国語学習を楽しんでいるのかが窺える。

21 学生のインタビューの中で、本調査の項目6（「韓国語は韓国にある教育機関で学習するのが最もよい」）について学生数名より以下のようなことが寄せられた。「日本で勉強してもいい先生さえいれば上達できる」「昔に比べると、日本にいても韓国の情報はたくさん入るし、ネイティブの先生もたくさんいるので日本でも大丈夫」「日本で勉強すると、日本人に合わせた教え方を先生がしてくれるのでメリットもある」「自分のレベルに合ったものがあるので、日本で日本人に特化した学習法で学ぶのもいいと思う」などである。だが、言うまでもなく、韓国の教育機関で学ぶ学習者は常に韓国語の環境に置かれているため、日本国内で学ぶ学習者より高い学習成果が予測できる。現状はどうか、実際それらを検証することが大事であり、今後の課題としたい。

【付記】

本調査にご協力いただいた熊本県立大学の「韓国語入門 B-a」「韓国語発展 I」の履修者のみなさまに、心より御礼を申し上げます。

【参考文献】

- 伊古田絵里（2004）「成績上位者は学習開始直後にどのようなピリーフスをもっているか：モンゴル日本語専攻大学生の事例研究」『日本語教育方法研究会誌』11(2), 38-39
- 片桐準二（2005）「フィリピンにおける日本語学習者の言語学習 Beliefs—フィリピン大学日本語受講生調査から—」『国際交流基金日本語教育紀要』第1号, 86-101.
- 坂井美佐（1997）「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS 上海復旦大学のアンケート調査より」『日本語教育論集』12号, 筑波大学留学生センター, 63-88.
- 崔 文姫（2016）「韓国語学習者の学習ピリーフに関する一考察」『熊本県立大学文学部紀要』第22巻, 111-136.
- Gardner, R. C. & Lambert, W. E. (1972). *Attitudes and motivation in second-language learning* : Rowley, MA: Newbury House Publishers.